



日建連表彰 2020



第61回 BCS賞

1. 芦原街道沿いの並木の緑をつなぐファサード
2. 「光を冷やす」コンクリートスリットスラブ
3. 「裏通り」にある16カ所の個人集中スペース

#### NICCA イノベーションセンター 計画概要

- 建築主 日華化学(株)
- 設計者 (株)小堀哲夫建築設計事務所
- 施工者 清水建設(株)
- 所在地 福井県福井市文京4-23-1
- 竣工日 2017年10月20日

- 敷地面積 12,360m<sup>2</sup>
- 建築面積 2,839m<sup>2</sup>
- 延床面積 7,496m<sup>2</sup>

- 階数 地上4階
- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造



詳細や他の写真などは  
左記のQRコードから  
Webページに  
アクセスしてご覧ください。

ともなく吹き抜ける自然の風と共に、コモンに居る人々に心地よい一体感を生み出している。また、コモンを無柱化するための構造的な耐震コアとなる大壁の配置が絶妙である。適度なスケールで空間を分節し、見え隠れする立体的空間のシークエンスが心地よい。この大壁は物品搬入ルートと共に、隠れ家的プライベート空間を内包するなど、設計者の配慮とそのデザインへの展開は緻密である。

実験室の設備更新のために装備されたメカニカルバルコニーは、福井の羽二重織をイメージした二重のアルミルーバーによって優しく包み込まれ、光と風を制御している。また、この地域に豊富な地下水を利用して、耐震大壁を輻射空調の蓄熱体にすると同時に、コンクリートスリットスラブの日射熱の除去を行うなど、自然の力を利用した環境に優しい建築を志向している。これら様々な環境技術を高度に総合化させた、施工者のきめ細かな取組みは見事である。

「この研究所で働きたい」と、新入社員の応募者が増えたそうである。社員の誇りとなり、愛情を持って利用され続ける新研究所として、ますます進化、成長していくことを期待する。

福井市に本社を置く化学品(界面活性剤)メーカーの新研究所。「イノベーション」を巻き起こせる企業にならないと存在できなくなる」という経営陣の危機感からスタートしたプロジェクトである。製品開発の高速化が飛躍的に進むなか、自社だけの研究開発力に固執するのではなく「オープンイノベーション」を導入し、積極的に社会や地域コミュニティと関わることでできる「場」や「空間」による「来訪者との共創」を促進していかねばならない、という強い問題意識がこのプロジェクトのプログラムを決定付けている。

設計の初期段階に、社員とのワークショップを七回行ったようであるが、経営トップは問題意識を設計者に伝えるだけでワークショップには一切出席しなかったという。こうし

た設計プロセスが、本建築のコンセプトの徹底や完成品質に大きく影響したと推察される。そして施設そのものが社員に愛着をもって利用されていることに繋がっているようである。

外周部にガラス張りの実験室を配置し、「コモン」と呼ばれるシームレスな共有空間を取り囲み、研究者と他者との刺激的な交流を生み出している。さらには複数の「コモン」を立体的に重ね合わせ、一階から四階までどこからでも視線が交錯、交感する。特に一階のコモンは社外に開かれた一種のショールーム、イベントスペースとなっており、来訪者との多種多様な活動を仕込むことによって「バザール」空間を標榜している。

最上階の天井は、全面が繊細なコンクリートスリットスラブで覆われ、トップライトからの優しい間接光が空間全体を包み込み、どこから

# NICCA イノベーションセンター

選定理由 【選考委員】  
後藤春彦・川島克也・松村正人

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2020年で61回を数えました。

《日建連表彰 2020 第61回BCS賞受賞作品》 追手門学院大学 Academic Ark / オーテピア 高知新図書館等複合施設 / 関西外国語大学 御殿山キャンパス・グローバルタウン / 資生堂グローバルイノベーションセンター S/PARK / 上越市立水族博物館 うみがたり / 水天宮御造替 / 須賀川市民交流センター-tette / 東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス / 豊中市立文化芸術センター / とらや 赤坂店 / NICCA イノベーションセンター / 日本橋二丁目地区プロジェクト / パッシブタウン黒部 第1街区 / 日向市庁舎 / 福井県年輪博物館